

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	12-076	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）		
Screening for harmful alcohol use in Australian trauma settings. オーストラリア人の外傷における有害な飲酒のスクリーニングについて		
執筆者		
Browne AL, Newton M, Gope M, Schug SA, Wood F, Allsop S.		
掲載誌		
Injury. 2013 Jan;44(1):110-7.		
キーワード		
飲酒、外傷、スクリーニング、有病率、害		
要旨		
背景： 飲酒に関連した外傷の常習性が高いことから、飲酒とそれに関連した害をスクリーニングする必要がある。オーストラリア人の外傷において、飲酒に関連している有病率をルーチンで収集することは現在行われていないが、多様なスクリーニングアプローチは、様々な臨床の場で行われている。本研究では、西オーストラリアの外傷患者において、アルコールに関連した害と有害な飲酒のルーチンスクリーニングの実行可能性を検討し、また飲酒に関連した外傷とリスクの高い飲酒の有病率を算出することを目的とした。		
方法： 飲酒に関連した害と有害な飲酒のスクリーニングのステップダウンモデルを発展させ、そして試行した。州全体の外傷救急サービスにおける4か月間の調査において、729人の頭部以外の外傷患者がスクリーニングされ、スクリーニングで陽性とされた538人は、続いて、標準化された飲酒に関する自己記入式質問票を記入した。		
結果： 飲酒に関連した外傷に対する救急簡易式スクリーニングプロトコールのコンプライアンス率は49%であった。スクリーニングを受けた対象者のうち、医療従事者により、77%は飲酒に関連した外傷、または習慣性のリスクの高い飲酒をしていると判断された。標準化された飲酒に関する自己記入式質問票を記入した対象者の60%は有害水準の飲酒を行っている判断された（41%危険飲酒、7%有害飲酒、12%アルコール依存）。これら対象者のうち、15%がDSM-IV-TRのアルコール中毒、25%がDSM-IV-TRのアルコール依存の基準を満たしていた。アルコール中毒または依存と診断された患者の約30%は、診療録に飲酒に関連した外傷または飲酒問題について記載されていなかった。飲酒量の増加はうつまたはPTSDのリスク増加と関連していた。		
結論： 本研究の結果から、飲酒に関連した外傷と有害な飲酒の高い有病率が示唆された。オーストラリア人の外傷時において有害な飲酒に対する信用性の高い経済的なスクリーニングプロトコールを発展させ、これらのコンプライアンスを確認し、また介入により飲酒に関連した害を減らすことが可能な対象者を正確に特定できるようにする必要がある。		